



本講演会では、日本を代表する3人の文学翻訳者が世界の長編小説の魅力と読み方を独自の視点から解説してくれます。長編小説がお好きな方から、まだ一度も読んだことのない方まで、多数のご参加をお待ちしております。長編小説を通して、生きるヒントをもらいませんか。

本講演会では、日本を代表する3人の文学翻訳者が

長編小説は 生きてらる か

講演者プロフィール

亀山 郁夫

1949年、栃木県生まれ。名古屋外国語大学学長、世田谷文学館館長。ロシア文学者。平成14年に「磔のロシアスターリンと芸術家たち」で大佛次郎賞、平成19年に翻訳「カラマーゾフの兄弟」で毎日出版文化賞特別賞、プーシキン賞を受賞。平成24年に「謎解き『悪霊』」で読売文学賞受賞。令和3年には「ドストエフスキーの星」勲章受章。ドストエフスキーの新訳では、他に「地下室の記録」「罪と罰」「悪霊」「白痴」「未成年」がある。また2015年に自ら最初の小説となる「新カラマーゾフの兄弟」を刊行。

野谷 文昭

1948年、神奈川県生まれ。東京大学・名古屋外国語大学・立教大学名誉教授。スペイン語文学。著書：『ラテンアメリカン・ラブソディ』『マジカル・ラテン・ミステリーツアー』、訳書：ガルシア＝マルケス『予告された殺人の記録』、『ガルシア＝マルケス中短篇傑作選』、『バルガス＝リョサ『ケルト人の夢』『フリアとシナリオライター』、プイグ『蜘蛛女のキス』、ボラーニョ『2666』（共訳）『チリ夜想曲』、『ボルヘス『七つの夜』、『20世紀ラテンアメリカ短篇選』など。

沼野 充義

1954年生まれ。名古屋外国語大学世界教養学部教授、東京大学名誉教授。ロシア・ポーランド文学の研究・翻訳の他、現代日本文学の批評にも携わる。主な著書に『徹夜の塊3 世界文学論』（作品社）、『徹夜の塊1 亡命文学論 増補改訂版』（作品社）、『徹夜の塊2 ユートピア文学論 増補改訂版』（作品社）、『チェーホフ 七分の絶望と三分の希望』（講談社）、『徹底討議 二〇世紀の思想・文学・芸術』（共著、講談社）など。主な翻訳にナボコフ『賜物』、レム『ソラリス』、シンボルスカ『終わりとは始まり』など。

司会・コメント **吉本 美佳** (名古屋外国語大学教授)

日時 2024年

5月7日 火

15:00~16:30

申込必須
参加無料

共催 名古屋外国語大学出版会、
名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館、
ワールドリベラルアーツセンター

対象 どなたでもご参加いただけます
※授業の履修学生は申込不要

参加方法 全面オンライン(ZOOM)

応募締切 4月30日(火) 17:00まで
※応募者多数の場合は先着順とさせていただきます。

申込方法 準備の都合がありますので、事前のお申込みをお願いいたします。
右記のQRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込んでいただくか、下記URLをパソコン等で直接入力して、申し込みフォームに必要事項を入力、送信してください。

<https://req.qubo.jp/wlac/form/20240507>



問合せ先

名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

TEL 0561-75-2164 (直通) Mail wlac_gg@nufs.ac.jp